

ゆうべの雨

さっき夜中に目覚めたら
窓を叩く雨の音
ブラインドの隙間から
ぶつかるしずく光る

一旦目覚めてしまっても
静かに雨音聞いていると
なんだかリラックスしてきては
今度は深い眠りにつく

シャラララ ララララ ポツポツ
シャラララ ララララ ザーザー
シャラララ ララララ こころが
シャラララ ララララ 穏やかに

ゆうべの雨のおかげで
今朝は快適な目覚め
外に出て綺麗になった
舗装を踏み締めて

あんなにたくさん降っても
今朝はすっかり晴れていて
西の向こうに雲は行き
オレンジ色に光る

シャラララ ララララ ポツポツ
シャラララ ララララ ザーザー
シャラララ ララララ こころが
シャラララ ララララ 穏やかに

晴れの特異日

空が綺麗な季節
必ず晴れると言われてきた
明日は晴れの特異日
どこか行きたいな

今夜は 早く寝るために
ワインをグラスに1杯だけ
焼きなす 酢の物 塩漬け
しゅうまい少しと枝豆に

二人暮らしになって
食べ過ぎで苦しくなることもなく
早寝早起き休みの日も
健康そのもの

一つだけ役割の風呂掃除
早めに済ましてしまい
今日も早起き準備 OK
どこにでも行ける

結局電車で街へゆき
夜だけ久しぶりの外食
稲庭うどんにトッピング
山菜 とろろに 温泉卵

二人暮らしになって
肉料理でなくても良くなった
昼間に使った日傘を畳んで
心地よい疲れ

ならわし

あんなに気にしていた日取り
縁起ばかりをかついでは
つまらない悩み増えるだけ
いっそ忘れてしまおう

なぜ良い日と悪い日がある
そのほとんどが迷信と
わかっていても
…ただ良い日と言われているのを
前向きなきっかけと
するのはいいかも

あんなに気にしていた方位
縁起ばかりをかついでは
つまらない悩み増えるだけ
いっそ忘れてしまおう

なぜ良い方と悪い方がある
そのほとんどが迷信と
わかっていても
…ただ良い方位と言われているのを
気分変えるきっかけと
するのはいいかも

不安を吹き消して

もしかしたら自分だけが
孤立しているかなと
感じてから久しいけれど
何も変えることはなかった

誰も自分のことなど
よく見てる人はない
でも些細なことでさえも
考えるとキリがない

これまでの不安
いっせいに吹き消したい
さわやかな朝に
赤く染まる雲見つめて

自分が思うほど
ほかの人は自分のこと
見ていないというけれど
気にしなくていいものなのか

誰も口に出さないだけで
冷たい視線感じる
でも些細なことでさえも
考えるとキリがない

これまでの不安
いっせいに吹き消したい
さわやかな朝に
赤く染まる雲見つめて

何があったとしても
自分のできること
自分信じながら
動くことしかできない

夢おいしいひとよ

夢おいしいひとよ 生きてくために
違う道を選んだとしても
あきらめられず 退屈な日々に
別れを告げる 勇気に気づくのか

少しだけでも 近づくために
触れる機会をなんとか増やして
自分の心 確認しながら
行動することためらわないで

夢おいしいひとよ 言葉に出すのが
恥ずかしくて黙ってたとしても
やはりこれしかないことになって
遠回りしても その道ゆくのか

思い通りにならなくても
続けていく気持ち大切に
たとえ何かにつまづいても
進んでいくことやめたりしないで

正しい道 あるわけではなく
道なき道をみんな進んでる
小さな間違いおそらくあるだろう
誰ひとり同じ道はない

こうありたい

誰かのため 何にも求めず
安らぎを与える

雲ひとつない空に
ありのままの姿
映し出すような
ダメなことも隠さず

成功することより
失敗語れるような
得られるもの増やして
失うこと怖がらないで

誰かのため 何にも求めず
安らぎを与える

少し暑さの残る
晴れ渡る秋の午後に
優しいそよ風のように
気持ち良くさせるような

誰かに媚びるよりも
自分らしさ求めて
今より良いカタチを
過去を引き摺ったりしないで